



マグニチュード7.7。五月二十六日正午の時報とともに襲った地震は、村内全域を激しくゆきぶり、停電や断水、道路決壊、家屋の半壊などが相次ぎ、六月十六日現在の物的被害額は、十億五千八百八十五万六千円におよぶ大きなものとなりました。

地震後、急襲した大津波に六人の釣り人が押し流されるなど、本村では最大規模の津波となり、津波体験に乏しい日本海住民の「盲点」と地震の恐ろしさを思い知らされる最悪の事態となりました。

あつ津波だ！ 釣り人が流される

濁流となってゴーゴーと音を立てて津波は押しよせた



道路が陥没し、アスファルトが波を打つ



水道断水で自衛隊の給水車が出勤した

津波で押し流された車を湖底から引き上げる



水道管破裂？
本格的な復旧はいつか



日本海中部地震・津波
災害対策本部
行動記録

津波さえ
避けられたら

避けられたら

五月二十六日正午ごろ、秋田、青森を中心に急襲した「日本海中部地震」は、深浦町、浪岡町、むつ市で震度5の強震を記録し、道路の寸断、水道管破裂による断水、家屋の手壊など、各地に大きな被害をもたらしました。

地震のあと突然襲った大津波は、脇元、十三漁港に係留中の漁船に被害を与えたほか、十三湖で釣りを楽しんでいた六人の命さえ一瞬のうちにのみこんでしまい、日本海では、最大規模の地震となりました。村では地震後直ちに、地震災害対策本部を設置し、十三、脇元、磯松地区住民の避難場

所の指定や避難命令を出す一方、災害復旧作業にのり出しました。

地震発生の翌日からは、十三現地対策本部を「地震、津波遭難者捜索対策本部」に切り替え、人命救助を重点に捜索活動を続けました。

所の指定や避難命令を出す一方、災害復旧作業にのり出しました。

地震発生の翌日からは、十三現地対策本部を「地震、津波遭難者捜索対策本部」に切り替え、人命救助を重点に捜索活動を続けました。

地震発生の翌日からは、十三現地対策本部を「地震、津波遭難者捜索対策本部」に切り替え、人命救助を重点に捜索活動を続けました。

地震発生の翌日からは、十三現地対策本部を「地震、津波遭難者捜索対策本部」に切り替え、人命救助を重点に捜索活動を続けました。

地震発生の翌日からは、十三現地対策本部を「地震、津波遭難者捜索対策本部」に切り替え、人命救助を重点に捜索活動を続けました。

恐怖のツメ跡



亀裂が入り段差ができた十三湖大橋、水道管もスタスタに切断された。



大きく地割れし、陥没した相内川堤防(右)と植え付けたばかりの水田にも地割れが走る(左)

- 5月26日
 - 12時00分 地震発生
 - 12時15分 津波発生
 - 12時25分 避難準備命令
 - 13時00分 対策本部設置
 - 十三地区に避難命令 (避難場所、二軒町、山子)
 - 13時30分 十三現地対策本部設置
 - 十三地区：十三漁港 脇元、磯松地区：脇元出張所
 - 13時35分 脇元、磯松地区に避難命令 (避難場所、脇元小学校)
 - 15時50分 避難命令解除 脇元、磯松地区
 - 16時05分 避難命令解除 十三地区
 - 16時10分 簡易水道復旧作業開始
 - 16時25分 白森隊給水車到着、給水開始
 - 自衛隊ヘリコプター捜査開始
- 5月27日
 - 5時00分 自衛隊ヘリコプター捜査開始
 - 海上保安庁巡視船志山丸捜索開始
 - 6時30分 十三現地対策本部を地震・津波遭難者捜索対策本部に切替
 - 7時30分 捜索開始
 - 第1班 漁船 11隻 人員 30名
 - 第2班 漁船 33隻 人員 102名
 - 消防団 人員 133名
 - 8時15分 被害調査活動開始
 - 12時00分 木造消防ヘイハイパー派遣要請
 - 12時08分 海上保安庁巡視船おいらせ捜索開始
 - 14時00分 志賀副知事現場視察
 - 14時30分 県環境保健部次長現場視察
 - 16時00分 ひとりぐらし老人調査完了(異常なし)
 - 被害車輛引揚(山口義光所有、マツダファミリー)
- 5月28日
 - 7時00分 捜索継続(規模前日と同じ)
 - 漁船 50隻 132名
 - 水道復旧工事継続
 - 8時30分 家屋被害調査開始
 - 遭難者捜索陣
 - 消防団 75名
 - 消防署 2名
- 5月29日
 - 7時00分 捜索継続
 - 13時30分 捜索対策会議

村の被害状況

(6月16日現在調)

人的被害

死者6名

建物等被害

住家92戸 216,600千円

環境保健

水道15ヶ所 1,010m 35,231千円

商工労働

商品破損 16,680千円

農 林

ため池・頭首工・農道・治山
178,493千円

水 産

漁港・漁船・漁網・養機揚・その他
139,622千円

土 木

27ヶ所 456,180千円

文教施設

学校・浄化槽・その他
3,000千円

そ の 他

観 光 6,050千円

合 計 1,051,856千円



県道にも大きな亀裂が走り地下水の噴出や隆起、陥没が多くみられた。

機 動 隊 11名
ダイバー 2名
金木署員 5名
西田ダイビング3名
村捜索船 1隻
自衛隊ヘリコプター
海上保安巡視船
成田建設クレーン車

■6月3日

捜索継続

消防団消防車 1輛
消防署司令車 1輛
機 動 車 11名
ダイバー 2名
金木署員 5名
西田ダイビング5名
村捜索船 1隻
自衛隊ヘリコプター
海上保安庁巡視船

■6月4日

捜索継続

消防団消防車 1輛
消防署司令車 1輛
機動隊11名ダイバー2名
金木署員 5名
西田ダイビング9名
東北管区機動隊ダイバー6名補助員6名
村 備 船 4隻
自衛隊ヘリコプター
海上保安庁巡視船

15時20分 秋田谷兼鏡十三橋下流
200m地点で遺体で発見

■6月5日

捜索継続

消防団消防車 1輛
消防署司令車 1輛
機動隊11名ダイバー2名
金木警察署員 5名
西田ダイビング8名
東北管区機動隊ダイバー6名補助員6名
村 備 船 4隻
自衛隊ヘリコプター
海上保安庁巡視船

■6月6日

捜索継続

消防団消防車 1輛
消防署司令車 1輛
機動隊23名ダイバー6名
金木警察署員 6名
東北管区機動隊ダイバー9名補助員9名
村 備 船 3隻
自衛隊ヘリコプター
海上保安庁巡視船

■6月7日

捜索継続

消防団消防車 1輛
消防署司令車 1輛
機動隊12名ダイバー3名
金木警察署員 5名
東北管区機動隊ダイバー9名補助員9名
村 備 船 3隻
自衛隊ヘリコプター

12時55分 十二浦河口3.5km南地点の
海岸で漂着死体発見

14時53分 小野元盛であることを確認

自衛隊ヘリコプター
海上保安庁巡視船「オイラセ」「津軽」
漁船 50隻 132名
消防団 48名・消防署
2名

■5月30日

捜索継続（人員縮小）
自衛隊ヘリコプター
（8時40分頃捜索につ
いて打合せ）
海上保安庁巡視船（津
軽、オイラセ）
漁船 50隻（探検しな
がら捜索活動継続）
五所川原消防団 23名
市浦消防団第1分団 10名
消防署 8名
機動隊 21名
金木署員 6名
村捜索船（小型1隻、
中型1隻）
県議会農林水産常任委
員会現地視察
災害救助法に基づく法
外援護運用

■5月31日

捜索継続
消防団第2分団10名
消防署 7名
機動隊 21名
ダイバー 2名
金木署員 6名
西田ダイビング4名
村捜索船（小型1隻、
中型1隻）
自衛隊ヘリコプター
海上保安庁巡視船
木造消防署員及びダ
イバー 3人
野高竹則・和嶋喜代志
・佐々木清一・山口義
光の4名が十三橋下流
150m地点で連体で発
見される
国土庁調査団来県、被災
地視察
県防災課長ヘリで米村
（ヘリコプター、巡視
船の継続捜索依頼）
自衛隊給水車引揚

■6月1日

捜索継続
消防団第3分団10名
消防署 7名
機動隊 11名
ダイバー 2名
金木署員 5名
西田ダイビング7名
村捜索船（小型1隻、
中型1隻）
自衛隊ヘリコプター
海上保安庁巡視船
木造消防署員及びダ
イバー3人

■6月2日

捜索継続
消防団第4分団10名
消防署 7名



白いキバをむき出して押し寄せた津波は、車、バイク、釣り人まで
も一瞬のうちにのみ込んでしまった。

カメラルポ 日本海中部地震

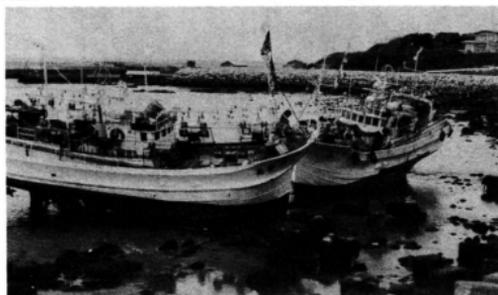


棚・冷蔵庫から落ちた商品が散乱
する商店



行方不明となった人たちはどこへ…。
ダイバーによる捜索

臨元漁港に係留中の漁船も、津波で海岸に
押し寄せられたが繰り返した大津波は更に
沖へと運びこんだ



その時
私は



相内保育所
山崎 桂子

ごはんをたべてあえんでいたら、はいくしょやぐぐらつとゆれて、ころびそうになりました。

しよしよせんせいですが、じしんです。じしんです。とおきなこえでさげびましたので、こわくてせんせいにしがみついてしまいました。



市浦中
和 嶋 徳子

学校全体が底からえぐられてるよにゆれ動き、立っていることさえできずその場に座りこんでしまいました。

まさか、お父さんが津波にさらわれたなんて、いまもって信じられません。地震が、津波が憎いノヤさしかったお父さんの面影が残るだけです。

語りつぎたい 悪夢の日を



監元
中村 清司

仲間といっしょに朝から釣りをしていたが、その日に限って釣れなかった。いつもと何となく違う……。

身近くになって、仲間の一



県内に大きなツメ跡を残した日本海中部地震。突然襲った津波は白いキバをむき出して、十三湖での釣り人六人を一瞬のうちにのみこんでしまった。
現存者には、まったくの「未経験」。予想を超えた津波の速さと警戒心不足が一層被害を大きくしたとも思われる。
地震・津波によってもたらしたあまりにも悲しい教訓を私たちは後世に語り継がなければならぬ。

人が突堤でボラを釣りにあ

私も突堤近くにいこうと準備をしていた時、地面が大きくゆれて、間もなみ湖底がめくられるように潮が引いた。

かと思うと、沖からは白いキバをむいた濁流が押し寄せてきた。

釣り竿もバイクもそのままにして夢中で走ったが、津波の速さに足をすくわれ濁流の

中に巻きこまれた。

気がついてみたら、流水にしがみつき、十三湖大橋がはるが西の方にみえていた。



十三
若 山 恭 次

神田橋を過ぎたところでハントルに異常を感じ、停止し

640余年……代々語りつがれてきた十三地区住民は津波の恐ろしさを知っていた。車力村栗山のNHKテレビ塔附近へ避難した十三地区住民。



北村正武県知事が来村し、三重村長から現況報告。全力をあげて災害復旧をすることを約束したあと、十三湖で死亡した六人の霊に献花しました。

た車の中でふと外部に視線をやると、用水路の水が左右に溢れ飛び、大きく揺れ動く電線で、「地震だ」と気づいた。

震度5。ラジオの放送に不安をいだきながら、五所川原へ行くのをやめて家へ引きかえした。土台が真二つに割れ、傾いた家屋を目前にするだけだった。



十三
奈 良 典 昭

「あつ、津波だ!」
十三湖大橋で地震後の被害写真を撮り日本海を振り返った、海がまるで狂った生き物のように隆起した。
つぎにカメラのシャッターを切った。何回切ったのか覚えていない。突堤にはまだ数人の釣り人がいた。
「私の夫もあそこにいるの」と絶叫する女の人の声もあつたが、もはや助けるすべはない。ただ、一刻も早く津まで逃げてきてくれることだけを祈った。

橋まであと七〇八〇メートルの地点まで逃げのびたものの、足を濁流にすくわれて転倒した人はどうなったのか。助けを求めた人の丹那さんはいなくなったのか……。
津波が引いた時、釣り人の姿は一人としてそこになかった。その間、私は計七回シャッターを切っていた。その一枚に九人の人が写っていたが三人はかえらぬ人となった。いまはただ、亡くなられた方々の冥福を祈るだけである

就任のごあいさつ

このたび、村助役ならびに
入役に選任された工藤・成田両
氏に就任の抱負を聞いてみまし
た。



収入役・成田義衛



助役・工藤誠一郎

新助役に工藤誠一郎氏 収入役には成田義衛氏

去る五月二十八日、村臨時
議会が開かれ、村助役に工藤
誠一郎氏（五三）、収入役に成
田義衛氏（五九）を選任する
人事案件が可決されました。

助役に選任された工藤氏は
昭和三十八年から四十年ま
で同村産業経済課長を務めた
あと、村議会議員として四期
目。その間、村監査委員、土

今日まで、村議会議員と
して、村民の声を行政に反
映させるため努力をして参
りましたが、去る五月二十
八日の村臨時議会で助役に
選任され、五月三十日就任
しました。

村長の施策を体し、「村民
との対話」に心がけ、地方
自治の原動力をふまえるが、
生産性の高い村づくり、う
るおいとまとまりのある村
づくりを進めたいと思ってい
ます。

村民各位のご指導ご鞭撻
をお願ひ申し上げて、就任
のごあいさついたします。

五月二十日収入役に就任
いたしました。浅学の身
で光栄に存していると同時
に、その責任の重さを痛感
しております。

これまでの職員生活、議
会および監査委員等で学ん
だいさかな経験を生かし
て、村長の補助的役割の一
部を果たしていきたいと

考えております。
私の預かる金庫は、村民
全体の金庫であり、皆さん
の福祉につながる金庫であ
りますので、正確に処理し
たいと考えております。

これまでに皆さんのご指
導に感謝し、今後一層のご
鞭撻をお願いして就任のご
あいさついたします。

本常任委員長も務めました。
収入役に選任された成田氏
は、昭和二十四年、旧福元村
役場入りし、昭和三十年の旧
三村合併後も議事事務局長や
税務課長等を務めた。昭和四
十六年に退職後は、村議会議
員として活躍し三期目。その
間、監査委員、総務常任委員
長等を務めていました。

6月定例議会 39,200千円を追加補正

村長が「ふるさとづくり」を力説

村議会第二回定例会は、六
月二十一日開会し、六月二十
五日閉会しましたが、開会に
当たって三重県村長と、発想
の転換による産業振興と、地
域住民の幸せ）についてとり
あげ、市浦村発展の原点は、
なにかを探究すべき時に至っ
ており、理屈をならべている
時ではない。住民一人一人の
旺盛な自治意識を高め、活力
ある世論形成を努力がな
されるならば、必ず目標は達
成できるものと確信している。

地域住民の幸せをより広く
より高く、より早く実現する
ことが、長い政治生活におけ
る私の信念であり、その実現

をはかる政策を強力に実施し
たいと思っている。と、所信
の一端を述べ、豊かで活力の
あるふるさとづくりへの第一
歩として、五百万円にのぼる
地域振興対策の特別予算を計
上した。とその意欲を表明し
ました。

■追加補正された主な予算は
次のとおりです。
▽地震災害復旧費一千八百四
拾万円。▽地域振興対策費
五百万円。▽五月女池駐車
場整備費百八十五万円。▽
議員共済組合負担金二百十
八万九千円。▽十三消防ボ
ンブ車庫、道路事業費二百
万円。▽中島公園整備費
調査委託費二百万円。



村長が所信表明を述べた六
月議会

金木高校相内分校

「根性野球」で優勝

創立30周年に花添える

第三十三回県高校定通制総体は六月十九、二十の両日青森市安田の県民体育館を主会場に開かれました。

今大会には、県内から三十二校が参加し、市浦村からは金木高校相内分校、須藤安一教頭・生徒数二十五人の野球部と卓球部が出場しました。

十九日の開会式では、同校に、二ツ森重志県教育長から第四回県高校運動部活動奨励賞が、同校代表の沢田清文選手(二年)の手にしっかりと手渡されました。

部活動奨励賞は、小規模校やへき地校で地道な努力を重ねているクラブに与えられるも

ので、ことは、相内分校軟式野球部と南郷高校女子ソフトボール部が受賞し、定時制高校としては、同分校が初めての受賞となりました。

競技では、卓球が青工に一回戦で敗れたものの、軟式野球は北斗を3-2で下し、準決勝では三沢高校を5-4で

敗り、決勝へとコマを進めました。

開会式で部活動奨励賞を受賞し、気をよくしていた相内分校野球部は、三沢高校を敗つた調子をそのままいかし、決勝では青工を13-2で敗り、一度目の優勝に輝きました。

同野球部は、八月十二日から八月十六日まで東京で行われる全国大会に、青森県代表として出場することになっており、体を休める間もなく日が沈むまで練習に励んでいます。

・通算二度目の優勝に輝き、がいせん報告に訪れた相高ナイン



相内分校教頭 須藤 安一

次は全国大会だ

相内分校創立三十周年の記念すべき年に、定時制高校では初めてという、部活動奨励賞の受賞に輝き、そして本校野球部長手前の夢であった優勝も手にすることができ、本当にうれし。全生徒数二十五人という小規模高校でも一生涯にめいや自信と、これまでも一人一人がそれぞれの立場で一生けんめい努力してきたことが実を結んだものと、みんな喜んでゐる。

九月十一日には、創立三十周年記念式典を予定しているが、まず東京での全国大会に標準を合わせている。四十三年には、全国高校定通制総体でベスト8に入った実績もあり、十四人の部員はチームプレーに徹してがんば

人事異動

6月6日付で役場職員的人事異動が行われました。() は旧所属です。

▼総務課長(民生課長) 三上 常一▼企画財政課長、相内保(収入役職務代理) 高橋 精一▼経済課長(税務管理) 松江 幸勝▼十三出張所長 脇元保

育所長 川口定雄▼相内保育所長(企画室長) 葛西安十郎▼教育次長(十三出張所長心得) 下山時敏▼経済課主管(総務課長) 和嶋定義▼企画財政課主管(経済課長) 三和保貞▼総務課主管(十三保育所長) 小倉 銀一▼民生課主管(民生課長) 佐藤哲也▼行政係長(財政係長) 佐藤寛▼財政係長(農委係長) 安倍隆悦▼企画

係長(教育次長心得) 桑野邦夫▼健康管理係長(保健衛生係長) 高志志▼農委係長(保健衛生係長) 三和省勝▼民生課係長待遇(海洋センター) 所長一

白川隆治▼農林産工係長(建築係長) 中居長男▼振興係長(企画係長) 長利勝雄▼農業共済係長(畜産係長) 佐藤悦男▼建設係長(行政係長) 古川 徹▼教委学務係長(農業共済係長) 山内守善▼農委係長(経済課長) 三和保貞▼社会教育係長(民生課主事) 成田 義正▼脇元出張所長心得(総務課主事) 村山正臣▼脇元保育所長心得 脇元保給食

元保主任保母(十三同主任保母) 長利友子▼相内保主任保母(相内同保母) 大沢ふみ子▼出納室主事(民生課主事) 棟方ゆう子▼総務課主事補(教委主事補) 葛西達也▼診療所(出納室主事) 佐野川ツル▼総務課運転技能員(育成セブン) 新岡新光、武田義光▼育成センター 同(総務課主事) 秋田谷多喜郎、岡本隆雄▼相内小給食給(脇元小同) 柏谷マツ子▼脇元小同(市浦中同) 吉田タケ、同(同) 工藤容子▼十三小同(相内小同) 吉田キミ▼同(相内小用務員)

三和チヨエ▼市浦中同(太田小用務員 奈良ハルエ) 同(十三小同) 安田喜美代▼同(市浦中同) 佐藤ヤイ▼同(十三小給食給) 亀田カツイ▼相内保同(脇元水同) 秋田谷いき▼十三保同(相内保同) 渡辺ゆき子▼脇元保同(十三保同) 豊島サチ▼役場用務員(十三保同用務員) 浜田郁子▼相内小同(市浦中給食給) 工藤良子▼市浦中同(役場用務員) 山田春美▼十三保同(相内保同) 漆いずみ▼相内保同(市浦中給食給) 葛西くみ子



▶ 54 ◀

津軽のふるさとを訪ねて

津軽のふるさとを訪ねて

(4)

石仏と骨がめ

蓮華庵北廊下の仏座に安置されている石仏が参詣者の眼を引きまします。相当に風



故郷に帰った安倍さま



長谷寺跡出土石仏

触されているのが市浦村の歴史の古さを感じさせます。

頭を右に傾け、両手をあぐらの上で印を結び(法界定印)のようす。禪定印ともいいます。何か沈思黙考の幽界に安楽しているのを感じるようすです。

出土場所は、桂川と太田川の合流する俗称中崎(四軒家向い)の長谷寺跡と村勢要覧「しらふ」(一九七九年版)に掲載されています。長谷寺も十三千坊の一寺

で、津軽の古文書「本藩通観録」の初巻にその名を銘記している古刹で、禅林寺址の近くです。島津製材所附近です。

そのほかこの寺跡からは骨がめも出土し、人骨や大きな礎石らしいものも出たそうす。骨がめはおそらく土師器と思われる。これも同

庵に保管されていることが書記されていますが、私の眼につきませんで残念です。石仏はもと、同庵境内に安置されていたそうすが、盗難をおそれた語部婆さんが現在位置に移置して守っているわけです。

北海生まれの木像

「これはあまり宣伝しないで下さい」と前置きした婆さんは、私及びつくりするお話をしてくれました。

「何年ごろだったか、北海道の小樽に銀行を建築することになり、整地をして

いたところ木像が出土した。その木像は津軽十三湊の安倍の殿様の誰かだった。その木像がここにあるんです」と、いらないことをしゃべったというような動作をしたものでした。

「いや、それはぜひ拝ませてもらいます」と、ひとくさり、十三湊安倍氏と北海道の関係をしゃべって、拝観を許可されました。私は、この木像に「北海生まれの安倍様」とをつけ親になり

たい気持ちにかられました。

故郷に帰った安倍様

お話のあらすじは、何か入れ物にはいつていたらしく、このことが報道されたと道の各寺院から奉納要望があったのに開口した支店長が全部ことわり、金庫に安置して定年退職後、臨終に際して縁故の深い蓮華庵に奉納したというのです。(関連つていたらご免下さい)「幾星霜も経て故郷に帰った安倍様です。」

安倍様の木像

高さ十三センチ位の武者木像で、遠い自分の先祖にめぐり逢ったような親しみを感じます。(1)の山王坊出土の観音様と同じ厨子にとても大切に保存されています。よくよく拝見しますと、全体としての感じが若干し

いようすが、顔の表情は何となく苦悩に満ちているようすで、嘉吉三年に南部戦に敗北した安倍盛季の悲痛な心境をひしひしと感じさせられ、断腸の思いでシャッターを押しました。合掌。

つ の 部

使える人より使う者。選三粒。余計こぼす。人を使うには苦勞が多く、決して楽ではない。

使えない鐵鎖びる。人の頭腦は使わなければ鈍ることのたとえ。

津軽衆は喋つてれば来る。

「喋るすれば影」と同じ。津軽人の抜け目なく、実利的、活動的な性格をいつたことば。

「参考」しやべつてららごさ来れば津軽衆。

津軽腰立ち犬はだし。津軽には一人が座を立つと、皆それにならつて座を立つてしまふ風習があるという意。

付き合いたば家コも焼く。人との交際は大切であること、義理のつらさを含む。

漬物賣れれば夫気悪する。つけものの味をはめることは、主顧そのものの味がよいということだから、はめるものではないという意。

粒は小さくても山椒は辛い形は小さくても、気性や才能が鋭く、またすぐれていて、あなどれないことのとえ。

「参考」山椒は小粒も辛い。

津軽のことば

生活の知恵

冷凍食品

保存方法

家庭用冷凍庫では

二、三か月が限度



冷凍食品は「旬のタイム・カプセル」といわれていますが、急速冷凍技術の普及により、取りたての味や香り、栄養分などほとんど変わらず保存できるようになりましした。
 「上手な保存方法」
 買ってすぐ解凍・調理する食品のほかは、直ちに冷凍庫に入れるわけですが、マイナス十五度以下の温度で保存す

れば品質が保てます。しかし、家庭用の冷凍庫は容量が小さく、開閉も頻繁なので、保存期間は二、三か月を限度とするのがよいでしょう。また、冷凍庫内の温度も上昇させないためには、開閉の回数はできるだけ控えめに。

「日付の記入でムダなく使えます」
 冷凍庫に入れた日付ラベルなどに入力し、冷凍食品に張っておくと、古い物から順に解凍・調理するのに便利です。再冷凍した冷凍食品。最近の冷凍庫には、急速冷凍のできるものがあります。便利にはちがいありませんが、いったん解凍した冷凍食品を再び凍らせるのは避けたいものです。再冷凍すると、食品のうま味や成分・栄養素が損なわれ、品質が悪くなるばかりでなく早く腐ってしまうです。くれぐれもご注意ください。

窓の戸籍



お誕生

葛西 勇二 (脇元) 幸一
 野上 享仁 (中里) 孝 恵
 丸山 広真 (太田) 正一
 恒吉 恵 (磯松) 徹
 中井 華恵 (十三) 育二
 浜田 祐樹 (十三) 和 幸

白川 幸徳 (十三)
 松澤由美子 (五所川原)
 小寺 勝枝 (脇元)
 鈴木水千秋 (磯松)
 鈴木 信久 (磯松)
 山田 昌子 (脇元)
 有馬 郁夫 (十三)
 小倉いずみ (福 島)
 佐藤 栄蔵 (脇元)
 小田内弘子 (十三)
 笹森 昭好 (五所川原)
 大井 泉 (太田)
 奈良 豊美 (富山)
 渡部恵美子 (横 浜)
 川内 敏範 (脇元)
 川村ミキ代 (長 崎)

おくやみ



ご結婚

高木 勉 (五所川原)
 山本 芳子 (太田)
 山内 昌幸 (小 治)
 和嶋 洋子 (磯 松)

成田 秀雄 (相内) 68歳
 柏谷 とめ (相内) 79歳
 成田 成蔵 (脇元) 79歳
 和嶋喜代志 (磯松) 56歳
 佐々木清一 (磯松) 59歳
 秋田谷兼義 (十三) 36歳
 小野 光盛 (磯松) 46歳

合格おめでとう



第六四回商工会球算検定試験は、六月四日村内各小学校で一斉に行われ、受験者数六十五名のうち三十五名が合格しました。
 合格者は次のとおりです。

- ▽三級 佐藤忍 (十三小) 佐藤香織、奈良美貴子 (市浦中) 宮本麻子、佐藤裕香、島津利加子 (辻分球算塾) 丸山鉄也、青山由美子 (太田小)
- ▽四級 柳谷十和、豊島夏子、長尾ゆう子 (十三小) 桑野聡子 (脇元小)
- ▽五級 佐々木育子、三上洋 (辻分球算塾) 三上智美 (太田小) 笹山舞香 (脇元小)
- ▽六級 成田寿美枝、長利 兼美、下澤卓司、丸山信彦、木村文昭 (太田小) 成田哲美 (脇元小)
- ▽七級 中村千恵子 (脇元小)
- ▽八級 八木沢直子、浜田 蘭子、奈良美貴子 (十三小) 三和泉、若真貴子 (辻分球算塾) 奈良千恵子、工藤昌子 (太田小)
- ▽九級 白川欽靖 (浦田塾)
- ▽十級 村上のぞみ、若山 さおり、白川知緒子、岩鉾綾 利子 (浦田塾)

■ 次回の検定試験日は、十一月二十日です。みなさんががんばって下さい。

編集室から

十三湊はその昔、わが国三津七港の一つに数えられ、繁栄をきわめていたといわれる。その繁栄も一三四年、突如襲った大津波で一朝にして町並みが消え去ったという。

六四〇余年前の歴史がくりかえされた。このたびの地震はさまざまな教訓を残した。また、いつ襲ってくるかわからない地震。津波、火事など。この二次被災は絶対防がなければならない。いまも余震が続いている。――(桑)